

### 【今日の説教から】

先週の箇所からだいぶ飛びまして、ヤコブと主の梯子のお話となりました。アブラハムによって祭壇に捧げられたイサクでしたが、しっかり者のリベカと結婚します。子であるエサウとヤコブに恵まれますが、両親の思惑の違いも手伝って、長子の権利を与える時に大変な波乱が生じます。兄の殺意を知って逃亡する弟ヤコブ。その荒野の道中で、主は彼に語り掛けられます。

日本語には訳されていませんが、「見よ」との言葉が 12 節に 2 回、13 節と 15 節に 1 回ずつあります。「見よ、はしがが据えられている。」

長子の権利をだまし取って命を狙われて逃亡の身となったヤコブですが、神様は彼のために天からのはしごを下ろされました。その事実を見よと聖書は語ります。はしがは据えられました。「はしごを外して孤立させる」ということわざがありますが、神様は失敗し、罪を犯し孤立している者にはしごを据えてくださいます。そして「見よ」、天からの使いがそのはしごを上がったり、下がったりしています。天使は初め低いところに、私たちと共にいて、まず上がり、そして神様の命を受けてまた降りてきます。ここにもイエス様のお姿を見ます。「見よ」主は彼のそばに立って言われます。「見よ」「わたしはあなたと共にいて、あなたがどこへ行くにもあなたを守り、あなたをこの地に連れ帰るであろう。わたしは決してあなたを捨てず、あなたに語った事を行う」 私たちは見るべき事を知ります。ここは神の家です。

皆様おはようございます。積雪のある寒い朝となりました。

2月に入り、寒さも本番に達しました。寒い日々ですが、どうぞご自愛ください。足元も悪い中、どうぞお気を付け下さい。

さて、先週の箇所からだいぶ飛びまして、ヤコブと主の梯子のお話となりました。アブラハムによって祭壇に捧げられたイサクでしたが、しっかり者のリベカと結婚します。子であるエサウとヤコブに恵まれますが、両親の思惑の違いも手伝って、長子の権利を与える時に大変な波乱が生じます。兄の殺意を知って逃亡する弟ヤコブ。その荒野の道中で、主は彼に語り掛けられます。

28:10 さてヤコブはベエルシバを立て、ハランへ向かったが、

28:11 一つの所に着いた時、日が暮れたので、そこに一夜を過ごし、その所の石を取ってまくらとし、そこに伏して寝た。

なんともわびしい流浪の旅です。家を離れ、危険が隣り合わせの孤独の身です。彼は意思をとって枕として荒野に身を横たえます。もう少し柔らかい枕はなかったのでしょうか。石だけがごろごろと転がる荒涼とした土地であったことが分かります。カナンからハラン。それ

は彼の祖父アブラハムに神様が語られた約束の土地へと行く旅路と正反対でした。北上するその旅。逃れ逃れ行く彼の旅路でした。

28:12 時に彼は夢をみた。一つのはしごが地の上に立っていて、その頂は天に達し、神の使たちがそれを上り下りしているのを見た。

日本語には訳されていませんが、「見よ」との言葉が 12 節に 2 回、13 節と 15 節に 1 回ずつあります。「見よ、はしごが据えられている。」

長子の権利をだまし取って命を狙われて逃亡の身となったヤコブですが、神様は彼のために天からはしごを下ろされました。その事実を見よと聖書は語ります。「一つのはしごが地の上に立ってい」る。はしごは据えられました。「はしごを外して孤立させる」ということわざがありますが、神様は失敗し、罪を犯し孤立している者にはしごを据えてくださいます。

見よ、地面から、天にまで達するはしごが据えられている。何という壮大な話なのでしょう。これが天から下されたはしごです。この後の話にはなりますが、人はバビロンにて、天高く至る塔を立てて神様の領域を脅かし、その人の望みを承服させようと神様に挑みましたが無駄でした。しかしここには神様のおられる天から地面に向かってはしごが渡されたのです。その天と地とをつなぐはしごが、兄の調子の権利をだまし取り、罪を犯し流浪の者となったヤコブに渡されているのです。

そして「見よ」、「神の使たちがそれを上り下りしているのを」彼は夢の中に見ました。

下り上りではなくて、上り下りしているというのも興味深いわけです。

もう彼が気付かないうちに天の使いはすでに降りていて、彼と共に地の上におり、そして流浪の、そして固い石を枕にして荒涼としたところにひとり身を横たえる彼のもろもろの自責の念、やるせなさ、懺悔の心、さびしきの心を全て携えて天使たちは天に昇り、そして光といのちのあふれる天の世界からのものを携え降る天使たちなのでした。

この姿からはイエス・キリストを思い起こさざるを得ません。主は富んでおられたのに私たちのために貧しくなられ、打ち傷を負って、私たちの贖い代となられ、実によみにまで下られ、そして天に戻られました。そうして罪により死に、罰せられ途方もなく低いところに追いやられなければならない私たちの定め的身代わりとして主は全てを経験してくださいました。主は下り、さらに下られてそして私たちを引き上げてくださいます。

御名を掲げてという讃美歌がありますが、この讃美歌の英語の詩には、イエス様が地に下られ、十字架に挙げられ、墓に、よみに下られ、そして天に昇られたことが見事に描かれています。

御名を掲げて あなたを讃えます  
救いのために あなたは来られた

救いの道を与えに 天より降り来られた  
十字架により命あがない よみがえられた

Lord, I lift Your name on high  
Lord, I love to sing Your praises  
I'm so glad You're in my life  
I'm so glad You came to save us

You came from heaven to earth to show the way  
From the earth to the cross, my debt to pay  
From the cross to the grave  
From the grave to the sky  
Lord, I lift Your name on high

見よ、神の使たちがそれを上り下りしているのを見た。

ルカ 2:13 するとたちまち、おびただしい天の軍勢が現れ、御使と一緒に神をさんびして言った、

2:14 「いと高きところでは、神に栄光があるように、地の上では、み心にかなう人々に平和があるように」。

神様は、地上に神様の国を到来させるためにイエス・キリストをお与えになられました。

ヨハネ 1:36 イエスが歩いておられるのに目をとめて言った、「見よ、神の小羊」。

1:47 イエスはナタナエルが自分の方に来るのを見て、彼について言われた、「見よ、あの人こそ、ほんとうのイスラエル人である。その心には偽りがない」。

1:48 ナタナエルは言った、「どうしてわたしをご存じなのですか」。イエスは答えて言われた、「ピリポがあなたを呼ぶ前に、わたしはあなたが、いちじくの木の下にいるのを見た」。

1:49 ナタナエルは答えた、「先生、あなたは神の子です。あなたはイスラエルの王です」。

1:50 イエスは答えて言われた、「あなたが、いちじくの木の下にいるのを見た、と、わたしが言ったので信じるのか。これよりも、もっと大きなことを、あなたは見るであろう」。

1:51 また言われた、「よくよくあなたがたに言うておく。天が開けて、神の御使たちが人の子の上に上り下りするのを、あなたがたは見るであろう」。

天が開かれ、救いが開かれていることを見なさい。その遣わされた神の御使いを見なさい。さあ見なさい、神様の御救いを見なさい。これがヤコブに語られたメッセージですし、私たちに語られたメッセージでもあります。

その救いの象徴であるはしごは打ち据えられています。私たちはその救いを見、私たちと共に住み、私たちを上に引き上げてくださる神様の御使い、神の御子イエス・キリストをしっかりと見るべきです。

28:13 そして主は彼のそばに立って言われた、「わたしはあなたの父アブラハムの神、イサクの神、主である。あなたが伏している地を、あなたと子孫とに与えよう。

28:14 あなたの子孫は地のちりのように多くなって、西、東、北、南にひろがり、地の諸族はあなたと子孫とによって祝福をうけるであろう。

そして神様は、この兄を、父を裏切って長子の権利をだまし取ったヤコブに、祖父アブラハムに神様が告げられた民族への約束を語られました。

「見よ」主は彼のそばに立って言われます。

主は彼のそばに立っておられます。詐欺師で強奪犯で、命を狙われて流浪の彼を贖い、彼を赦し、彼を癒し、そばに立って無尽蔵の祝福を約束し、そして世界のすべてにわたる神様の祝福のご計画を明らかにされるのです。

私たちが繰り返し読んでまいりましたように、私たちもまたそのために、地上のすべての国と民族の民の祝福のために贖われ、救われ、祝福を受けているのです。その究極の目的は、地の諸族の祝福です。私たちを通してすべての地上の民は祝福されるのです。このことを返す返す教えているのが聖書です。私たちが神様の民として、忘れてはならないゴールを、聖書は、神様は、繰り返し繰り返し教えています。すなわちそれは、私たちのゴールは、私たち自身の平安や祝福ではなくて、私たちを通してあふれ流れる神様の恵みと祝福が世界にあふれることなのです。そのために私たちは、イエス・キリストによって与えられた神様の救いである福音をお伝えするのです。

28:15 わたしはあなたと共にいて、あなたがどこへ行くにもあなたを守り、あなたをこの地に連れ帰るであろう。わたしは決してあなたを捨てず、あなたに語った事を行うであろう」。

「見よ」わたしはあなたと共にいて、あなたがどこへ行くにもあなたを守り、あなたをこの地に連れ帰るであろう。わたしは決してあなたを捨てず、あなたに語った事を行うであろう」。

神様が直々に「見よ」「私は」、「私は」と語りかけ、「あなたと」共にいて、「あなたを」守り、「あなたを」流浪の土地から連れ帰るとのお言葉です。私はあなたを見捨てないとお言葉も、孤独の身であったヤコブにとってはどんなに大きな慰めと力づけだったのでしょうか。私のこの約束を守るまでは決してあなたを見捨てないという事は、私はあなたを助ける約束を必ず守るという事です。

28:16 ヤコブは眠りからさめて言った、「まことに主がこの所におられるのに、わたしは知らなかった」。

28:17 そして彼は恐れて言った、「これはなんという恐るべき所だろう。これは神の家である。これは天の門だ」。

28:18 ヤコブは朝はやく起きて、まくらとしていた石を取り、それを立てて柱とし、その頂に油を注いで、

28:19 その所の名をベテルと名づけた。その町の名は初めはルズといった。

「まことに主がこの所におられるのに、わたしは知らなかった」

まさしく恵みの中、私たちも同様の告白をすることがあります。私は独りぼっちだった。神様に見捨てられたと思いそうになっていた時、神様の働きかけを頂き、神様に見捨てられた、神様は私と共におられないと思っていたが、「見よ」神様のはしごは私に据えられ、「見よ」、神様の御使いは上り下りしてとりなし、贖い、救い、「見よ」、「わたしはあなたと共にいて、あなたがどこへ行くにもあなたを守り、あなたをこの地に連れ帰るであろう。わたしは決してあなたを捨てず、あなたに語った事を行うであろう」と語られる神様を知るとき、あなたはここに、わたくしと共にいてくださったのですね、私たちを独りぼっちにはしておかれなかったのですという事を悟るのです。

「主と私で歩いてきたこの道 足あとは二人分

でもいつの間にか一人分だけ 消えてなくなっていた

主よ、あなたはどこへ行ってしまったのですか

私はここにいる あなたを背負って 歩いてきたのだ

あなたは何も恐れなくてよい 私が共にいるから」

あしあと

ある夜、わたしは夢を見た。

わたしは、主とともに、なぎさを歩いていた。

暗い夜空に、これまでのわたしの人生が映し出された。

どの光景にも、砂の上にふたりのあしあとが残されていた。

ひとつはわたしのあしあと、もう一つは主のあしあとであった。

これまでの人生の最後の光景が映し出されたとき、

わたしは、砂の上のあしあとに目を留めた。

そこには一つのあしあとしかなかった。

わたしの人生でいちばんつらく、悲しい時だった。

このことがいつもわたしの心を乱していたので、

わたしはその悩みについて主にお尋ねした。

「主よ。わたしがあなたに従うと決心したとき、

あなたは、すべての道において、わたしとともに歩み、

わたしと語り合ってくださいと約束されました。

それなのに、わたしの人生のいちばんつらい時、

ひとりのあしあとしかなかったのです。

いちばんあなたを必要としたときに、

あなたが、なぜ、わたしを捨てられたのか、

わたしにはわかりません。」

主は、ささやかれた。

「わたしの大切な子よ。

わたしは、あなたを愛している。あなたを決して捨てたりはしない。

ましてや、苦しみや試みの時に。

あしあとがひとつだったとき、

わたしはあなたを背負って歩いていた。」

## FOOTPRINTS

One night I dreamed a dream.

I was walking along the beach with my Lord.

Across the dark sky flashed scenes from my life.

For each scene, I noticed two sets of footprints in the sand,

one belonging to me

and one to my Lord.

When the last scene of my life shot before me

I looked back at the footprints in the sand.

There was only one set of footprints.  
I realized that this was at the lowest and saddest times in my life.  
This always bothered me and I questioned the Lord about my dilemma.  
"Lord, you told me when I decided to follow You,  
You would walk and talk with me all the way.  
But I'm aware that during the most troublesome times of my life there is only one set of footprints.  
I just don't understand why, when I needed You most,  
You leave me."  
He whispered, "My precious child,  
I love you and will never leave you  
never, ever, during your trials and testings.  
When you saw only one set of footprints  
it was then that I carried you."

28:20 ヤコブは誓いを立てて言った、「神がわたしと共にいまし、わたしの行くこの道でわたしを守り、食べるパンと着る着物を賜い、  
28:21 安らかに父の家に帰らせてくださるなら、主をわたしの神といたしましょう。  
28:22 またわたしが柱に立てたこの石を神の家といたしましょう。そしてあなたがくださるすべての物の十分の一を、わたしは必ずあなたにささげます」。

これは誓いというのでしょうか。何か神様にまもりと食べ物と着る物の要求を突き付けて、飲んでくださるのならば私はあなたを私の神と認める、この石をあなたの家として、ここにあなたをまつり、記念としてあがめ、捧げものを捧げましょうというこの言葉には、彼の高揚感も手伝ってか、どこか自分が上であるかのような印象を受けるような気もいたします。彼はこの先叔父のラバンから苦しみを受け、神様と格闘をし、そして兄に謝りを捧げます。欠けが未だあり、学ばなければならないことがたくさんあります。しかし神様の恵みは無条件です。私たちが立派で、それにふさわしいから授かるものではありません。そんな神様でいらっしゃるから、私たちは全存在をかけて感謝しつつこの身を全てお委ねすることが出来るのです。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。「わたしはあなた

と共にいる。あなたがどこへ行っても、わたしはあなたを守り、必ずこの土地に連れ帰る。…決して見捨てない」とのお言葉を本当にありがとうございます。罪を犯し逃亡するヤコブに神様ははしごを立て、御使いを上り下りさせてくださいました。私たちの罪のためにイエス様を遣わしてくださり、陰府(よみ)にまで下らせ、贖いを完成させ、私たちを天に住む神の子としてくださいました。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。私たちをお用い下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン